
魔法少女リリカルなのはA's ～転生したり変身したりガンダムになったり...～

朱雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはA・S　　転生したり変身したりガンダムになったり…

【Nコード】

N6882N

【作者名】

朱雀

【あらすじ】

転生したオリ主が皆と力を合わせて事件を解決していく物語です！

プロローグ 1 / 2 (前書き)

駄文ですがよろしくお願いします。

プロローグ 1 / 2

「あゝあ、何か面白え事無えかなあ」 そんなことを考えていると…

「おいそこの君っ！早くそこから逃げろ。」

と言う声が聞こえた次の瞬間…

ブチッ ドガアアアアン

この瞬間俺は鉄骨の下敷きになり死んだ…

「…んっ…知らない天井だ…」

「おおようやく起きたか？」

「…ここはいつたい何処なんだ？」

「ここか？ここは神の間と呼ばれる所じゃ、ちなみにわしはゼウスじゃ」

なっ！ゼウスだと！と言う事は俺は死んだのか…

「なんじゃ知っておったのか…なら話は速い。御主には「魔法少女リリカルなのは」の世界に行つてほしいのじゃ」

「まあ言い出すけど…理由を教えてくれない？」

「実は御主の魂はあの世界の許容量を軽く越えてしまつてあのままじゃと崩壊していたんじゃ。じゃからその根源である御主の魂をここに連れて来たのじゃ」

「と言う事は俺のせいで世界が崩壊するから俺を殺したと言う事か？」

「本当に済まなかった」

「別にいいですよ。と言うか行く世界は「リリカルなのは」何ですよね」

「そうじゃけど」

「俺、このまま転生したら速攻死ぬと思うんだけど」

「安心せい。そこもちゃんと考えておる」

「いったいどうすんですか？」

「御主に力をやろう」

「力…ですか？」

「うむ、まずは、御主には「平成ライダー」の力をやろう、
無論変身道具と強化アイテムもな。次は「ガンダムになれる」力を
やろう。これは任意のガンダムになれる力じゃ。そして最後は「神
の本棚」じゃ。簡単に言くと「地球の本棚」の全次元・並行世界の
事がわかるという事じゃ。これならば大丈夫じゃろう」

「…チートですね…まあいいです平成ライダーもガンダムも好
きだし…あつあとひとつだけ追加してもいいですか？」

「一つ位なら問題ないぞ」

「じゃあファイズアクセルのスタートアップを10秒越えたり、
Wのツインマキシマムドライブを使っても平気な身体にしてくださ
い」
ダブル

「…よしっ出来たのじゃ。ちなみにベルトは頭の中で想像す
れば出てくるからの」

「わかった、んじゃそろそろ行くか」

「そうか、わかった、あと少し待っていてくれ」

プロローグ 2 / 2 (前書き)

続きます

プロローグ 2 / 2

「なあゼウス」

「なんじゃ」

「初代リインフォースを俺のユニゾンデバイスとしてくれないか？」

「まあ別にいいのじゃが…突然どうしたのじゃ？」

「だって向こうに行ったら知り合いもないし……Wに変身するときに必要だし！」

「明らかに後者が本音じゃな…まあいいじゃろ。御主の目の前に復活させるからの！ハアッ！」

その瞬間光の粒子がひとつに集まり、そして…

「ん…ここは…」

「どうやら成功したようじゃな？」

「貴方は、一体……」

「その事は俺から説明してやろう。」

（説明中）

「…と言う事だ」

「そうだったのか…ありがとう」

「別に礼を言われる事じゃ無いさ。実際復活させたのはゼウスだしな」

「それでもだ…ありがとう」

「準備が出来たのじゃ」

「そうか、それじゃ行くか、アインス」

「そうだな、マスター」

「なあ、アインス、その“マスター”ってのやめてくれないか？」

「それでは何と」

「そう言えば名前を教えて無かったな、俺の名前は“神崎蒼弥

”、蒼弥と呼んでくれ」

「それでは蒼弥、行きましようか？」

「ああ、ゼウス送ってくれ」

「わかったのじゃ、それじゃ気をつけての」

その瞬間、俺達の足元に穴が出来て、そして…

「きやああああああ」

「てめえええええ覚えてるよおおこの駄神がああああああ」

俺達は穴に落ちていった

「ホントに良かったの？ゼウス」

「アテネ……」

「あの子の魂なら神にだってなれたじゃない」

「いいんじゃない…いいんじゃないよこれで……」

「ふうん、まっあんたがいいならいいけどね。そう言えばオー

ディンが呼んでたわよ」

「わかったのじゃ、先に行っておいてくれ」

「わかったわ、アンタも遅れるんじゃないわよ」

アテネがいった後ゼウスは蒼弥達がいた場所を眺め…

「たのむぞ蒼弥…その世界を救ってくれ……」

プロローグ 2 / 2 (後書き)

遂に主人公の名前が出ました！
アインスも出しました

着いた所は…森の中？（前書き）

題名を直しました。

着いた所は…森の中？

「ーきて… ーきてくだ…」

んっ 何か声が…」

「ーきてください… 誰だようるさいなあ…」

「起きてください！」

「うおお！…なんだアインスか、脅かすなよ」

「やっと起きましたか、蒼耶。ところでここはどこですか？」

「ここは海鳴市だな。時期は、闇の書事件だな。ジュエルシードのらしき魔力もないし」

「闇の書…ですか」

「心配すんな、俺がなんとかしてやるからよ」

「蒼弥…そうですね。そのときはお願いします」

「ああ任しとけ」

「ところでこれからどこに行くんですか？」

「そうだな、図書館にいくか！けどお前はあの姿で行くなよ」

「わかってますよつとそういうええ言い忘れてましたが…」

「ん、どした」

「実は…私小さくなれないんですした」

「…マジかよ、はあ…しょうがねえ、闇の書が覚醒するまでこれに入っとけ」

「何ですか？これ」

「これは「ダイオラ魔法球」って言ってな、本来なら中と外の時間は違うんだがこれは一緒なんだ。まあなんかあったら念話してくれ」

「分かりました。それではまた」

「ああすまないな」

そういつてアインスは中に入った

「…んじゃ気を取り直して図書館にいくか」

そして俺は図書館に向かった。

その時の神（前書き）

作者「最初に行っておく！・・・なんかすみません」
蒼弥「いきなりどうした！作者」

その時の神

「なあゼウス？」

「なんじゃオーデイン」

「実は、俺も転生者を送ろうと思うんだけどさあ、どの世界がいいと思う？」

「どの世界と言ってもアニメの世界じゃろうが。まったくお主の趣味は変わらんのう」

「いいじゃん別に、人の趣味なんか！オタクの何が悪い！ああそうさどうせ俺は一人で「〇〇は俺の嫁！！」とか「お婆ちゃんがつていた・・・」とか「俺、参上！！」とか「僕に釣られてみる？」とか「目標を、駆逐する」とか「狙い撃つぜ！！」とか「通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ！！」とか言つてればいいんだああああ」

「泣くなよオーデイン。そこまで言つとらんじゃろ。

「もうバカにしない？（涙目& amp・上目遣い）」

「うつ、しつしないのじゃ」

「じゃあ、これ来てくれる？」

「わかつたのじゃ！だから泣くな」

「じゃよろしく（ケロツ）」

「嘘泣きだつたのか！？まあいい着てやろう」

「じゃ待つてるね」
（着替え中）

「どうじゃ」

「うん似合うよ」

「いまのゼウスの格好はバカ〇スの秀〇です

「それじゃそのまま会議に行こうか？」

「何、もうそんな時間か？着替える時間もないしいいのじゃ」

「それじゃ行こうか（ニコツ）」

「う、うむ行くのじゃ・・・（ポツ／＼／／）」

作者「なんかすみません・・・」

その時の神（後書き）

作者「いきなりですがゼウス&オーデインの設定です」

蒼弥「制裁は後にしてやる」

（ゼウス
設定）

名前 ゼウス

性別 女

身長その他 バカテスの秀吉と一緒に

（オーデイン
設定）

名前 オーデイン

性別 男
（イケメン）

身長その他 バカテスの明久と一緒に

作者「・・・すみません（土下座）」

蒼弥「よしそこになおれ制裁してやる」

作者「だが断る！！」

蒼弥「アインス」

アイン「わかりました」

作者「なんでアイン「ガシッ」くそH A N A S E」

蒼弥「いくぞウイングゼロ（EW）」

作者「やつ、ちょ、それはやめろ！」

蒼弥「ツインバスターライフル・・・発射あ」

作者「ぎやあああああああああ」

蒼弥「長いわああ」

作者「まさかの二発目！？」

蒼弥「ふん、ざまあ」

作者「・・・・・・・・」

蒼弥「んっなんか書いてある。なにになに・・・・・・・・えっ」「ゼウスとオーデインは恋人同士」・・・・・・・・ってなにiiiiiiii」

作者「ちなみにマジです!」

蒼弥「いつの間に復活した・・・」

作者「禁則事項です」

蒼弥「キモいからやめれ」

作者「ということと感想等お待ちしてます」

蒼弥「無視かい!!」

設定、A・S編、（修正）（前書き）

修正しました

設定（A・S編）（修正）

主人公設定

名前	神楽 蒼弥
年齢	9歳（前世19歳）
容姿	ガンダム00のニール・ディランディを幼くした感じ
魔力	SSS+

能力

ガンダム

その名の通りにガンダムになれる

ライダーツール

主役ライダーからサブライダーのツールを完璧に仕様可能

時空の本棚ときのほんだな

あらゆる次元・平行世界の過去・現在・未来が見れる

限界突破

ツインマキシマム以外の制限を無効化出来る

これからさらに増えるかも知れません。（増えないかも知れませんが・・・）

設定 A・S 編 (修正) (後書き)

作者「あ、あの〜どうして怒ってるんでせうか」

蒼弥「そんなもん決まっている・・・ム力つくからだ!!」

作者「理不尽っ!!」

蒼弥「・・・変身」

- 5 5 5 スタンディング バイ コンプリート -

作者「そっちがその気なら 変身」

- 9 1 3 スタンディング バイ コンプリート -

アイン「なんかカオスになりそうなので今日はこの辺で。」

アイン「また次回会いましょう」

蒼弥「くたばれ」

- エクシードチャージ -

作者「いつの間にアクセルに!!」

蒼弥「アクセルクリムゾンスマッシュ」

作者「ギヤアアアアアアアア」

出会い、そして…（前書き）

作者「遅くなつてすいませんでしたあああああ（ジャンピング土下座）」

蒼弥「一体どれだけ遅くなつたんだ…」

作者「1ヶ月ぐらい」

蒼弥「後書きで処刑だ」

出会い、そして…

side 蒼弥

「さてと、んじゃ、はやてを探すか。」

あれから俺は図書館に来ていた。もちろんはやてを探すためにだ。

「……つと、ほつ、えい。」

(んっ、あの娘は……)

side ????

「……つと、ほつ、えい」

(は、最悪や。あとちょっとなのに。)
そう諦めかけた、その時……

「…よつと、はい、これでしょ？君がとうとうとしていた本は？」

彼が現れた……

side 蒼弥

(んっ、あの娘は…)

そして、俺は、その娘に近づき、そして…

「…よつと、はい、これでしょ？君がとろつとしていた本は？」

そう言い彼女に本を渡した

「あつ、はい、ありがとうございます…」

そう言い彼女は本を受け取った

「あとは何か、とどかない本はある？」

「それじゃあ、その本をお願いします。」

「了解。それじゃあちよつとまってね……………はい、これ」

「ありがとうございます。…あつ、自己紹介がまだやったね、うちは、「八神はやて」って言います」

「俺は神楽蒼弥、よろしく。あと敬語じゃなくていいから」

「それじゃあ、蒼弥君て呼ばせてもらうわ、こっちこそよろしゅうな。」

俺達はそれぞれ自己紹介をして、本を借りて帰って行った

蒼弥、聞こえるかの？

「この声、神か？てかどこから」

これは念話じゃから頭で念じればいいのじゃ

こっか？

うむ、これで念話は大丈夫じゃろう

で、何の用だ？

お主の家の事じゃ

家ね、で何処だ？

八神はやての家の隣じゃ

……マジ？

本気が真剣と書いてマジじゃ

なぜそのネタを知っている？

禁即事項じゃ

もうツツコまねえ

まあ家の場所は教えたからのそれでわの

おう、じゃあな

(……にしてもはやての家の隣か。…はてさてこれからどうなることやら)

その後俺は神が用意した家に帰った

出会い、そして…（後書き）

（あとがきコーナー）

作者「どうも、作者です。（ガタガタぶるぶる）」

蒼弥「神楽蒼弥だ。ところで作者」

作者「……なんだ」

蒼弥「とりあえず死んどけ…」

作者「えっ、やつ、ちよっ 蒼弥「問答無用」 どうか慈悲を（泣」

蒼弥「んな物、あるわけ無えだろう。だからとっとと逝け。」

作者「ちよつと字がちg 蒼弥「ツインサテライトキャノン…発射
アアア」 ギヤアアアアアア」

蒼弥「作者が死んだところで今日は終わりです。それではまた次回」

作者「（プスプス）いつかあいつに下剋上を……」

クリスマス特別談話会&お知らせ（前書き）

お知らせは後書きに載せます

クリスマス特別談話会&お知らせ

作者「さあゝはじまりました、クリスマス特別談話会！ということ
でみんなで今後の話をしよう。」

蒼弥「話ってなにを話んだよ。」

作者「いやゝ実はさ、この先ってあまり考えてないんだよねゝ」

蒼弥「……一辺死ぬか？」

作者「だが断る、まあ本音いうと騒ぎたいんじゃないじゃあボケエエエ」

蒼弥「結局それかああああ」

作者「バギイゝそげぶつ……殴ったね…親父にも 蒼弥「黙れやボ
ケ」ぐはあ…な、なにをしゃがる！」

蒼弥「いや、なんかこう…イラッてきてな（笑）」

作者「いやいやいや、どんな理由だよ！しかも（笑 ってバカにし
てるだろうが！」

蒼弥「ぶちっ）いい加減ダメレ…変身」

作者「えっ、変身とかズルくね。しかも龍騎って……ま、まさか……」

蒼弥「……（スッ）」

アドベント

作者「やっぱりいいいい、ドラグレッダーとか鬼畜過ぎる……へ、い、いや、ちよ、こつち来んじゃね……ってぎやああああああ（作者ドラグレッダーが丸かじり）」

蒼弥「……あれ、俺はなにを……つうか作者が死んでる！……仕方ねえ俺が閉めるか！んじゃ次回もヨロシク！」

クリスマス特別談話会&お知らせ（後書き）

作者からのお知らせ

申し訳ありませんが今日から3月後半まで投稿をストップさせていただきます。

理由の方ですが、作者自身の高校受験のための勉強のためです。
あと、投稿はしませんが、小説を読みに来たりはしますのであしからず。

それでは

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6882n/>

魔法少女リリカルなのはA's ~ 転生したり変身したりガンダムになったり... ~

2010年12月26日00時03分発行